

## 練習船「大島丸」進水式

### —大島商船高等専門学校—

#### 次世代を担う船員の後継者確保・育成につながる練習船

10月13日、大島商船高専の四代目となる新練習船「大島丸」の命名・進水式が、下関市の三菱重工業下関造船所江浦工場において開催された。式典には来賓をはじめ一般見学者、大島商船高専の学生ら合わせて約150人が集まり、本組合からは平岡英彦中央執行委員と漢那太作九州関門地方支部長が来賓として出席した。

建造中の「大島丸」は、従来の練習船に比べ大きく、船名は現在の3代目「大島丸」を継承し命名された。

来年の3月中旬の引き渡しに向けて工事が行われ、就航後は、学生の航海実習や運航・海洋に関する調査実験に従事する。また、災害時には船外給水・給電、物資輸送などの災害支援にも活用できる仕様となっているため、今後の活躍が期待される。昨今、女子学生が増加傾向にあることから、女子学生専用の設備・エリアを設け、快適な学習と居住環境を意識し具現化した。さらに、電気推進方式を採用したことで、省エネとCO<sub>2</sub>削減など環境負荷の低減が期待されている。

現行の3代目「大島丸」が、1993年の就航以来約30年にわたり多くの船員を世界に送り出してきたように、4代目「大島丸」も次世代を担う船員の後継者確保・育成につながるよう期待されている。

「海員だより」